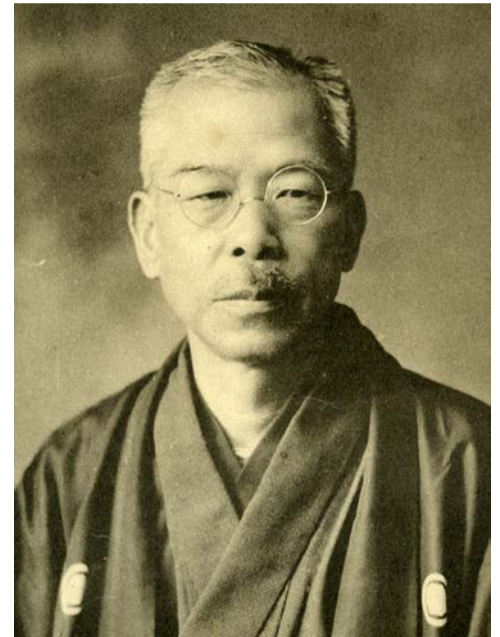


# 「鶴の一声ちゃ！」

## － 林 鶴一文書 －

林 鶴一（1873～1935）は、和算の研究で有名な数学者です。東京帝国大学を卒業し、京都や松山での教育・研究活動を経て、創設期の東北帝国大学に赴任しました。その後日本で最初の数学専門学術雑誌で、学外や海外からの投稿も受け入れる『東北数学雑誌』を刊行し、自身も400を超える論文を生前に遺すなど、数学の発展に寄与しました。また、初代図書館長として大学の研究基盤を支え、大部の和算書コレクション（林文庫・林集書）も残しています。



林の学問の特徴として、オリジナリティー重視があります。海外留学をしなかった一方で、出身地徳島の伝統である和算研究を引き継ぎ、西洋のモノマネでない学問研究を目指したことが指摘されています。もう一つの特徴として挙げられるのが、数学全般を万遍なく研究する態度でした。ある特定の分野を徹底的に深く追究するよりも、幅広い学問を志向したことは、日本の数学教育の草創期に大きな役割を果たすことになりました。林が編集した膨大な教科書や教育関係蔵書の大半は、現在宮城教育大学に所蔵されています。

林は「徹頭徹尾 Leader であり Pioneer であった」と評されます（藤原松三郎教授の追悼文）。55歳という早すぎる退職と、文部省視学官に転じて旧制松江高等学校を視察中の逝去（狭心症による）は、他に流されない性格と、決め言葉「鶴の一声ちゃ！」に窺える自負を全うする生き方だったのでしょうか。史料館が所蔵する計56点の林文書は、その歩みを後世に伝える材料でもあります。